



# 市内3病院を訪問し、医療再編などで意見交換

梅谷守衆院議員の呼びかけで16日、上越地域の県議、市議の有志が上越市内にある厚生連上越総合病院、県立中央病院、新潟労災病院を訪ねてきました。そこでは、病院幹部のみなさんから能登半島地震対応、病院の働き方改革、地域医療再編対策などについて聴くとともに、意見交換をさせていただきました。

## 地震でエレベーターなどに被害

先日の能登半島地震では、病院でも大きな被害が出ていました。特に上越総合病院においては、エレベーターの一部や病棟給茶機、採尿検尿器具などが使用できなくなったり、非常灯、オーバーテーブルなどが破損したりしていました。

上越総合病院の院長さんは、「今回の地震で一番大変だったのは津波対策だ」と言われましたが、今回の津波の遡上を見ても心配です。また、新潟労災病院は地域住民の避難場所となり、150人からの人たちが避難し、一夜を過ごしたとのことでした。津波対策は本格的な議論と対策が必要ですね。上段左側のイラストは上越病院でのものです。

## 医師不足などで意見交換

意見交換、懇談で一番の話題となったのは医師、看護師不足、働き方改革です。「医師不足対策として何をすべきか、医療現場からの声を聞きたい」との質問に、上越病院院長さんは、「ポイントの一つは、医師が職場を

決めるときに自分が働いて成長していけるかどうか、そういう環境が用意されているかどうかだ。もう一つのポイントは待遇だ。新潟県の研修環境は魅力がない」と答えておられました。医大の設置、医学部定員における地域枠確保などが医師確保の中心課題だと思いますが、こういう角度からの検討も大事だと思いました。上越総合病院では、看護師が不足しているので人材派遣会社から常時7~8人来てもらっていて、その場合の人員費は2倍になるとのこと。看護師不足も深刻な状況であることを再認識しました。中央病院は現在110人の医師がいるそうですが、関東地方では、中央病院くらいの規模の病院だと200人くらいの医師がいるとか。働き方改革を進めていくと、このくらいの規模が必要になるのかも知れません。新潟大学と富山大学が連携して北越地域医療人養成センターを昨年度から設置し、両大学の教育ノウハウを共有し、地域を守る総合的な能力を持った医師を共同で養成していく方針を打ち出していることもお聞きしました。重要な取組だと思います。

## 労災病院2年後閉院は県主導

新潟労災病院は2年後に閉院するという方針が昨年、打ち出されましたが、県立中央病院幹部の方は、懇談のなかで、「当初はもっと時間をかけていくものと思っていた」と話しておられました。それで、新潟労災病院での懇談で、「2年後に閉院という方針は病院で

決めたのか、それとも新潟県か」と質問したところ、「新潟県だ」との回答でした。やはり、県主導の再編ですね。今後、移動するスタッフの処遇は病院間の協議が中心になるだろうとのことですが、「一つの病院を閉院し、いくつもの病院が労災病院の機能の受け皿になるというが、全国でこういう形での成功例はあるのか。病院を1つの運営主体が引き継ぐという選択肢はなかったのか」との問いに、「成功例があるかどうかは承知していない。機能引継ぎに穴が開くことがないようにしていく」と病院側は答えていました。今回訪問したメンバーからは、「地域では病院を残してほしいという強い声がある」との声が出ていました。病院を今後どうするかは、もっと時間をかけて地域住民の声もよく聴いて決めべきだと思います。



【ロウバイ】ロウバイ科の落葉広葉樹の低木。漢字で「臘梅」と書きます。吉川区や柿崎区で見かけるロウバイは高さが3mほどです。花期は1月から2月で、黄色の花を咲かせます。ただ早いものは12月に咲くことがあります。花言葉は「慈しみ」「先見」です。写真は柿崎区上下浜にて1月8日、撮影。

はしづめ法一の  
活動レポート

No.2142 2024.1.21  
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp  
URL https://www.hose1.jp/



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一 検索



# 春よ来い

## 第七八九回 うれしい出会い

偶然、思いがけない人と出会う。それも同郷の人と……。いいものですね。

先日、寒風が吹き荒れるなか、柿崎区の下黒川地区で活動レポートを配布しているときのことでした。

ある家の玄関へ入らせてもらい、出てこられた女性にレポートを渡すと、「私、尾神の人間です」と言われました。すぐに顔を見たのですが、誰だかわかりません。それで、「おまんちの屋号は？」と尋ねると、「タバタです」という答えが返ってきました。「タバタなら、おうちの親父が大変世話になった家です。それはそれは……」と話を続けました。

わが家は一九八二年（昭和五七）秋まで尾神岳のふもとの尾神にありました。私が三二歳のときまでです。いまでも尾神の人たちとは親しく付き合いをさせていただいています。タバタのお父さんも私の父も同じ会社に勤めていたことがあり、よく行き来していました。タバタのお父さんは背が高く、すらっとした姿の方でした。子ども時代、私は歌手の田端義夫に似ている人だと思っていました。そんなこともあって、タバタという名前を聞くだけで特別の思いが湧いてきます。

それだけではありません。女性は六十代前半の人だと思ったのですが、私のすぐ下の愛知県在住の弟と同級生だということです。それにもびっくりしました。

数日後、今回の出会いを愛知県の弟に伝えたとこころ、「背が割合と高く、まじめな人だった」と教えてくれました。

弟には久しぶりに電話をしたのですが、弟の同級生の近況をいくつも聞きました。東京の有名ホテルで仕事をしていたKさんは退職したが、料理の腕を買われて別の職場で頑張っている。Nさんは亡くなったが、お姉さんがずっと面倒をみていた。Hさんはいま田んぼに一生懸命で、もらった

コマがばかうまかった。いずれの人も私も二級下の人ですので、知っています。レポートを渡した女性との出会いをきっかけに波紋が次々と広がりそうです。

数年前にビラ配布をしているときにも、尾神出身の人に出会いました。このときも柿崎区でした。料理がおいしいことで定評のある民宿の近くに住む方でした。こちらは私よりも年上の方でしたが、私のことを知っていてくださいました。私の活動レポートをよく読んでいることも教えていただき、感激したものです。

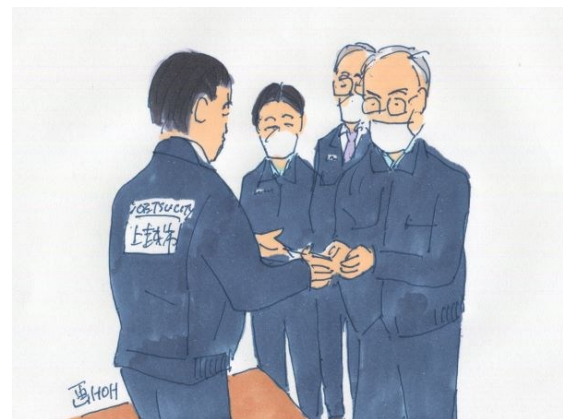
こういう体験は尾神だけではありませんが、私が現在住んでいる吉川区代石出身の人や近くの町内会の関係者、私が生まれた大島区の関係者との出会いもうれしい気持ちになります。

これも何年か前になりますが、コマリのあるお店でカードを作成するために、私の名前など必要事項を書いてスタンプに渡したら、「橋爪さんですね、いつもお世話になっていきます」と言われ、驚きました。この方は私が農業委員として活動していた時に、委員仲間だった人の家の方だったので、「こんなところで、吉川の人と会えるなんてうれしいね」と言ったら、「もう一人、吉川の人がいますよ」と言って、その人を紹介してくださいました。二人とは初めて言葉を交わしたのですが、気分は上々でした。

最近では、直江津は石橋で「しんぶん赤旗」日曜版を配達しているときに、すぐ近くのお店で仕事をしていた人がニコニコしながら私の顔を見ています。見た瞬間、わが家の隣のNさんだとわかり、「おー、こんなところで会うとは」と声を上げました。

同郷、あるいは自分とかわりりの深い地域の関係者と遠く離れたところで偶然出会うと、何となく親近感を覚え、うれしくなるのは何故でしょうか。

## 日本共産党が上越市に100万円の義援金



日本共産党中央委員会は15日、上越市に対して100万円の義援金を贈りました。

この日は党大会と重なり、五十嵐地区委員長が不在だったので、日本共産党議員団の私が委員長に替わって、目録を中川市長に渡しました。

目録を受け取った中川市長は、「非常にありがたい。義援金は、大切に使用してもらいたい」とのべていました。その後、懇談し、直江津港の復旧や漁港被害対策、災害ごみ処理などについて意見交換しました。イラストは目録を贈呈したときの様子です。

## 市内各地でサイの神

13日、14日は市内各地でサイの神行事が行われました。このうち、私の地元野内会では14日、午後3時に点火し、無病息災、五穀豊穡を祈りました。

この行事には嫁ぎ先から戻って、サイの神行事に参加してくれた人もいました。遠くに住んでいても、この日のために帰省する人も。うれしかったです。イラストはスルメ焼き風景。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月10日(水)	1月17日(水)
上越南消防署	0.053	0.057
上越北消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.057	0.040
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.070	0.067
東頸消防署	0.053	0.043
名立分遣所	0.057	0.043
高士分遣所	0.053	0.047



# 春よ来い

## 第七八九回 うれしい出会い

偶然、思いがけない人と出会う。それも同郷の人と……。いいものですね。

先日、寒風が吹き荒れるなか、柿崎区の下黒川地区で活動レポートを配布しているときのことでした。

ある家の玄関へ入らせてもらい、出てこられた女性にレポートを渡すと、「私、尾神の人間です」と言われました。すぐに顔を見たのですが、誰だかわかりません。それで、「おまんちの屋号は？」と尋ねると、「タバタです」という答えが返ってきました。「タバタなら、おうちの親父が大変世話になった家です。それはそれは……」と話を続けました。

わが家は一九八二年（昭和五七）秋まで尾神岳のふもとの尾神にありました。私が三二歳のときまでです。いまでも尾神の人たちとは親しく付き合いをさせていたと思います。タバタのお父さんも私の父も同じ会社に勤めていたことがあり、よく行き来していました。タバタのお父さんは背が高く、すらっとした姿の方でした。子ども時代、私は歌手の田端義夫に似ている人だと思っていました。そんなこともあって、タバタという名前を聞くだけで特別の思いが湧いてきます。

それだけではありません。女性は六十代前半の人だと思ったのですが、私のすぐ下の愛知県在住の弟と同級生だということです。それにもびっくりしました。

数日後、今回の出会いを愛知県の弟に伝えたとこころ、「背が割合と高く、まじめな人だった」と教えてくれました。

弟には久しぶりに電話をしたのですが、弟の同級生の近況をいくつも聞きました。東京の有名ホテルで仕事をしていたKさんは退職したが、料理の腕を買われて別の職場で頑張っている。Nさんは「く」になったが、お姉さんがずっと面倒をみていた。Hさんはいま田んぼに一生懸命で、もらった

コメがばかうまかった。いずれの人も私も私も二級下の人ですので、知っています。レポートを渡した女性との出会いをきっかけに波紋が次々と広がりそうです。

数年前にビラ配布をしているときにも、尾神出身の人に出会いました。このときも柿崎区でした。料理がおいしいことで定評のある民宿の近くに住む方でした。こちらは私よりも年上の方でしたが、私のことを知っていてくださいました。私の活動レポートをよく読んでいることも教えていただき、感激したものです。

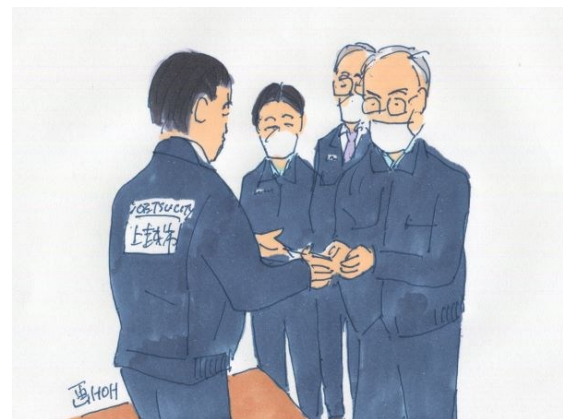
こういう体験は尾神だけではありませんが、私が現在住んでいる吉川区代石出身の人や近くの町内会の関係者、私が生まれた大島区の関係者との出会いもうれしい気持ちになります。

これも何年か前になりますが、コメリのあるお店でカードを作成するために、私の名前など必要事項を書いてスタンプに渡したら、「橋爪さんですね、いつもお世話になっていきます」と言われ、驚きました。この方は私が農業委員として活動していた時に、委員仲間だった人の家の方だったのです。「こんなところで、吉川の人と会えるなんてうれしいね」と言ったら、「もう一人、吉川の人がいいますよ」と言って、その人を紹介してくださいました。二人とは初めて言葉を交わしたのですが、気分は上々でした。

最近では、直江津は石橋で「しんぶん赤旗」日曜版を配達しているときに、すぐ近くのお店で仕事をしていた人がニコニコしながら私の顔を見ています。見た瞬間、わが家の隣のNさんだとわかり、「おー、こんなところで会うとは」と声を上げました。

同郷、あるいは自分とかわりりの深い地域の関係者と遠く離れたところで偶然出会うと、何となく親近感を覚え、うれしくなるのは何故でしょうか。

## 日本共産党が上越市に100万円の義援金



日本共産党中央委員会は15日、上越市に対して100万円の義援金を贈りました。

この日は党大会と重なり、五十嵐地区委員長が不在だったので、日本共産党議員団の私が委員長に替わって、目録を中川市長に渡しました。

目録を受け取った中川市長は、「非常にありがたい。義援金は、大切に使用してもらいたい」とのべていました。その後、懇談し、直江津港の復旧や漁港被害対策、災害ごみ処理などについて意見交換しました。イラストは目録を贈呈したときの様子です。



## 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月10日(水)	1月17日(水)
上越南消防署	0.053	0.057
上越北消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.057	0.040
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.070	0.067
東頸消防署	0.053	0.043
名立分遣所	0.057	0.043
高士分遣所	0.053	0.047

## 新エッセイ集、発刊へ

私の11冊目のエッセイ集『春になったら』を今月の下旬に刊行する予定です。今回のエッセイ集は、2018年8月から2020年2月までに書いたものの中から、60篇を選んで編集しました。

今回もアマゾンを使っての注文印刷です。定価は1595円の予定です。

春になったら

橋爪法一

冬あつには必ず春が来る。人生だって同じ。